

産業用ヒートポンプ

伸び続くも鈍化傾向

JEHICが調査 9割以上がボイラと併設

(一社)日本エレクトロヒートセンター(JEHIC)、会長・内山洋司氏は、メーカー十三社を対象に「産業用ヒートポンプにおける導入量把握調査」を実施し、このほどその結果を取りまとめた。

それによると、産業用ヒートポンプの導入台数は、全体的には右肩上がりで見られ、しかしながら、近年は伸びがやや鈍化傾向にある。空冷ヒートポンプを除くと、二〇一四年度をピークに右肩下がり傾向にある。

二〇一八年度の累積台数は四千五百四十七台、累積容量は六十五万二千五百六十八キロワットである。

「化学・石油」「電気・電子」「機械他」「自動車(部品)」となっているが、多くの業種において導入されている状況が分かる。

工業別導入量は、台数ベースでは、多い順に「加熱」「濃縮蒸留」「洗浄」「乾燥」となっている。

産業用ヒートポンプのボイラの併設有無は、台数ベースで九七%が「ボイラ併設有り」、kWベースでは九五%が「ボイラ併設有り」。産業用ヒートポンプの大多数が「ボイラに併設」されて運用されていることが分かる。